

FreeBSDでMailmanを用いて メーリングリストを運用する

Echigo BSD Users Group

2009/02/21@万代市民会館

神保道夫

Mailmanとは？(1)

- メーリングリストシステムの1つ。特徴として、
 - ・ Webベースでの管理システム(MTAによっては、完全自動でMLの作成、削除可能)
 - ・ 多言語(含日本語)サポート
 - ・ アーカイブのWebでの閲覧が可能(MHonArcへのフック機能もある)
 - ・ SPAMメールの排除機能
 - ・ メールコマンドも使用可能
 - ・ 多数の大規模サイトでの運用実績
 - ・ 配送エラーの自動処理
- などが挙げられる。

Mailmanとは？(2)

- 開発はSourceForge上で行われていたが、現在は <https://launchpad.net/mailman> で行われている。予定では、2.2(開発中)及び3.0について言及されている。
- ライセンスは、GNU GPL v2, GNU GPL v3 となっている。

FreeBSDでの詳細仕様

- 2009/02/07現在、Mailman 2.1.11が ports/mail/mailman として提供されている。また、日本語仕様のメタポートとして、 ports/japanese/mailmanがある。
- 作成時に、user mailman(91)、group mailman(91)をadduserする。
- sendmail/Exim3,4/Postfixをサポートしている。
- Python必須(mailman自体がPythonで書かれている。一部にCも使われている)

メールでのコマンド操作(1)

- FMLやMajordomoにもあった、メール内にある特定のキーワード(subscribeとか)を各機能は、Mailmanにも似た形で実装されています。
- mylist-join@example.com
mylist-subscribe@example.com
mylistというMLに参加する
- mylist-leave@example.com
mylist-unsubscribe@example.com
mylistというMLから脱退する

メールでのコマンド操作(2)

- mylist-owner@example.com
ML管理者に連絡をとるときのアドレス
- mylist-request@example.com
メールを処理するためのプログラムに届き、オプションなどの設定ができます。詳しくは、このアドレスに「help」と書かれたメールを送ってください。

Webでのコマンド操作

- Web経由でのコマンド操作は、通常であれば <http://WEBSERVER/mailman/listinfo/LISTNAME> のような形になります。ここからログインすることにより、様々な操作ができるようになります。
- メールのアーカイブを見る場合は、 <http://WEBSERVER/pipermail/LISTNAME> から参照することができます。

シェルでの操作

- 管理する権限があれば、次のようなコマンドでもML管理が可能である。
- ML新規作成
`/usr/local/mailman/bin/newlist MLNAME`
- メンバー追加
`/usr/local/mailman/bin/add_members -r [file] MLNAME`
- メンバーの削除
`/usr/local/mailman/bin/remove_members -r [file] MLNAME`
- ML削除
`/usr/local/mailman/bin/rmlist MLNAME`
- 等…。スクリプトに使い方が書いてあるのでそれを読んでください。

MailmanのSPAM対策

- Mailmanでは、主に以下のようなSPAM対策を取っています。
 1. 会員名簿の一覧のレベル操作と表示のぼやかし
 2. アーカイブの閲覧レベルの設定
 3. MLの投稿制限
 4. 匿名リスト(ヘッダ情報の削除・投稿者の書き換え等)

Mailmanの運営にあたって(1)

- シーケンス番号の付け直し方
/usr/local/mailman/bin/withlist LIST-NAME
を実行し、
m.Lock()
m.post_id = 150
m.Save()
^D
をコマンドとして入力すると、シーケンス番号
が150になります。

Mailmanの運営にあたって(2)

- ヘッダ等の修正の仕方

```
/usr/local/mailman/bin/config_list -o testfile  
testml
```

を実行すると、testファイルに設定内容が出力される。それをエディタで編集し、

```
/usr/local/mailman/bin/config_list -i testfile  
testml
```

を実行することにより、その設定でMLの設定が変更される。

Mailmanの運営にあたって(2)

- Subject: を[EBUG-members 2296]にする
config_listコマンドで出力後、
subject_prefix = '[EBUG-members %d] '
と変更し、config_listコマンドで入力する
- デフォルトで通し番号を整形して付けるには、
/usr/local/mailman/Mailman/mm_cfg.py
DEFAULT_SUBJECT_PREFIX =
“[%s(%real_name)s %d] “ の部分を変更する。

参考URL

- **GNU Mailman - リスト会員向けマニュアル**
<http://mm.tkikuchi.net/Doc/mailman-member/>